

橘復興副大臣の「全国ふるさとフェア 2016 ぐううま横濱」
訪問ぶら下がり会見録

(平成28年11月6日(日) 13:40～13:44 於) 神奈川県横浜市)

1. 質疑応答

(問) 震災から5年半というこのタイミングで、復興庁が工芸品というものに注目した理由というものは、どういった部分におありなんでしょうか。

(答) やはり生業の再生ということの一つ大事なんですよ。生活の場と生業の再生ということですけど、生業の再生は、地域に根差して、その地域のもともと持っている力をもう一度、つくり出すとか引き出していくとか、こういうことが大事だと思うんです。もちろん、いろいろな光の当て方はあると思うんですけど、例えば農産物もそうだし、海産物もそうなんだけど、伝統工芸品というものも、もともと地域が持っている特色、力なので、そこを引き出してあげて、そして、また新しい個性というのかな、新しい東北ということにつなげていければということで、農産物や海産物という地場の物という意識の中から、ひとつこういうものもジャンルとして取り上げたということです。

(問) 今回イベントを御覧になられていかがでしょうか、感想は。

(答) 皆さん、伝統工業の産地はみんなそういうところがあるんですけど、今までのものだけではなかなか新しい販路とか、新しいニーズになっていかないものだから、やはり今の生活スタイルが変わるとか、あるいは消費者の嗜好が変わるとか、こういうものにどうチューニングしていくかということが多分大事なんですよ。

今日拝見していて思ったのは、そういう量の上じゃない、生活の場合はこういうものもいいだろうとか、それからそういうファッショナブルなものはこういうものもいいだろうとか、あるいは小物でいろいろ提案してみようとか、非常に意欲的な、例えばだるまさんの色が黄色になったり、それから小さな根付をやったりとか、非常にそこは随分工夫があるなと思ったんです。それをこういう大消費地で、できるだけ多くの人に見てもらって、そこで実際に話し合いしていただく中から更にこれがいんだなとか、もうちょっと変えようかなとか、そういうことを気づいていただくのが一番いいと思うんですよ。そんな意味では、大変多くの方がいらっしゃる絶好の場所だったと思います。

(問) 最後に一つなんですけれども、芸人さんとのこういったコラボレーションということはいかがでしょうか、復興庁内での反応だったり、ラジオ番組に関して。

(答) やっぱりどうやって物を知ってもらうとか気づいてもらうかというときに、なかなか発信力の高い、我々にはなかなかできないような形で、「住みます芸人」の方々は、実際その地域に根差していただいている、一種、地方創生みたいなところもあるわけで、そこで地域に実際に触れ合いながら、そして、じゃあ、私は宮城よとか、私は福島よってうれしいですね。そういう芸人さんの熱い思いというのがうまくこういうふうに乗っかってくると、今までにないようなパンチ力が出てくる、そこはすごく今回、ちょっと今日30分ぐらい御一緒させていただいて、我々にまねのできないよさがあったと思います。

是非いろいろな形で、今知ってもらいたいとか、広げていきたいというのがあるものですから、一つの試みとして大変おもしろかったし、逆に文化放送さんとか吉本さんがそういうことに、要するに、やってやろうじゃないのと思っていただく心意気は大変ありがたいと思います。

(問) どうもありがとうございました。

(以 上)